

令和4年6月16日

第1回医療的ケア委員会 参考資料

令和3年度 第3回医療的ケア委員会で「医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて」各委員からそれぞれの立場で話をさせていただきましたが、その内容を深めるための時間が持てず、今回その機会を持ちたいと思います。

- ・医療度の高い方が卒業されてから社会と繋がりにくいと思うことが多い。
社会的にどういう繋がりがあるのか。
- ・支援学校のスクールバスに乗れないので家族が送迎をしている。家族の負担が大きい。
- ・訪問看護は自宅でしかつかえないルールだが、場合によっては自宅以外でも使えるようにしてほしい。
- ・看護師の確保ができず保育所の利用が進みにくい。
- ・災害時の個別避難計画の進み具合について。災害時、スムーズに避難できるのか。
- ・対応できる支援者を育てていくことが大切。
- ・訪問入浴が足りていない。週1回しか利用できない。
- ・就労時に重度訪問介護が使えない。京都市は9月から重度障害者等就労支援特別事業が始まっている。
- ・3号研修を修めたが、支援者も支援に入っていないと忘れていく。

医療的ケア委員会

ワーキンググループ

<p>人材育成</p>	<p>三宅・西條・吉川・小泉</p>	<p>事務局 夏川 山田</p>
<p>医療型短期入所</p>	<p>西條・村田・山本 瀬川・森井・高津・吉田</p>	
<p>医療的ケアの周知活動</p>	<p>堀内・山本・大藪 村田・瀬川・大塚</p>	
<p>医療的ケア児等コーディネーター養成研修 修了者のフォローアップ</p>	<p>尾瀬・大塚・西邑</p>	